

Platio

スタートアップ° ガイド

アステリア株式会社

本書について

本書は、Platioの概要の理解と基本的な操作の習得を目的としています。

Platioの概要、利用する全体の流れを理解し、Platio Studioでテンプレートからモバイルアプリを作成して、Platioアプリ・データビューアーでアプリを使う基本的な操作を説明します。

2023年4月 第八版

Platioへのお問い合わせは「お客様ログイン」をご利用ください

<https://asteria.com/mng/login>

目次

はじめに	4
Platioを利用するには何が必要？	5
Platio利用の流れを理解しよう	6
Platio製品とユーザー	7
Platioのしくみ	8
①作る（モバイルアプリを作る）	9
Platio Studioにアクセスしてログインする	10
ミニアプリとデータポケット	11
ミニアプリテンプレート	11
ユーザーを追加する	14
ユーザー情報を変更する	14
②使う（モバイルアプリを使う）	17
Platio Studioでミニアプリ情報を表示	17
Platioアプリのインストール	18
アプリユーザーでミニアプリにログイン	18
QRコードをスキャン	19
ミニアプリにログイン	19
データポケット画面.....	20
データを入力	20
データの入力を完了する	22
③見る（収集したデータを見る）	23
データビューアーにアクセス	23
ミニアプリにログイン	24
データポケット一覧からレコードを確認.....	24
レコード詳細を表示	25
レコードの編集	27
お知らせ	28
Platioセミナーのご案内	28
付録	29

はじめに

Platio（プラティオ）とは？

現場の業務に合わせた形式で入力できるモバイルアプリを作成し、現場でモバイル端末のモバイルアプリから入力したデータをクラウドで管理するクラウドサービスです。

クラウドに集めたデータは、リアルタイムに閲覧でき、また集積したデータから通常とは異なる状態を検知して変化や予兆に気付く仕組みを活用できます。



モバイルアプリのテンプレート

Platioには、現場に合わせた100種以上のモバイルアプリのテンプレートがあらかじめ提供されています。利用シーンに合ったテンプレートを見つけて選択するだけで、すぐにモバイルアプリとして使うことができます。

どのようなテンプレートがあるかは以下の紹介ページをご参照ください。

<テンプレート紹介ページ>

<https://plat.io/ja/features/plates>



まずは、Platioを利用する環境を確認していきましょう。

Platioを利用するには何が必要？

パソコンとモバイル端末があれば、すぐに利用できます。

パソコン



用途

Platio Studioでモバイルアプリを作成する

データビューアーでモバイルアプリが集めたデータを管理する

環境

Google Chrome / Firefox / Safari / Edge の最新版

端末



用途

モバイルアプリでデータ入力・閲覧する

環境

iPhone / iPad / Androidスマートフォン

<バージョン詳細>

<https://plat.io/ja/spec/platio-app>

端末にはPlatioアプリをインストールしておきましょう。

アプリはアプリストアから無料でダウンロードできます。アプリストアで「**Platio**」と検索してください。

Platio利用の流れを理解しよう

Platio利用の流れ

Platioには次の3つのステップがあります。

① 作る (モバイルアプリを作る)

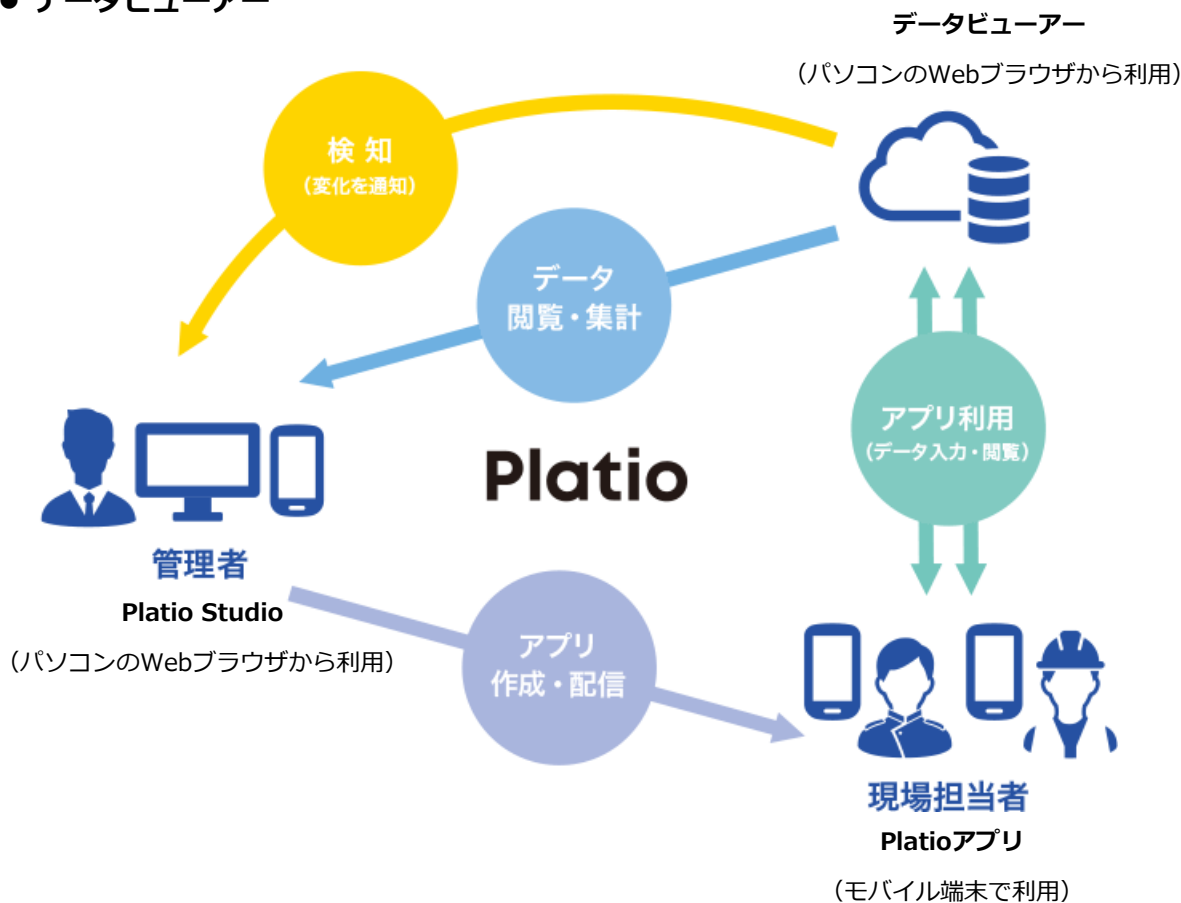
② 使う (モバイルアプリを使う)

③ 見る (収集したデータを見る)

製品構成

ステップに応じて、以下の3つの製品を利用します。

- Platio Studio
- Platioアプリ
- データビューアー



Platio製品とユーザー

Platioは、3つの製品から構成されます。各製品を使うためのアカウントには、モバイルアプリを作成する「Studioユーザー」と、モバイルアプリを使いデータを入力・閲覧する「ユーザー」の2種類があります。

製品概要と製品を使うアカウントの種類は表のようになります。

製品名	製品概要	アカウントの種類
Platio Studio (プラティオスタジオ)	モバイルアプリを制作する環境です。 パソコンのWebブラウザからアクセスし、Studioユーザーでログインします。 約100種類の中から業務に合ったテンプレートを選択してアプリを作ります。 ユーザーを登録して、アプリが使えるように招待します。	Studioユーザー 「今すぐ体験！」のお申込み時に登録したユーザーが、「Platio Studio」の最初のStudioユーザーです。管理Studioユーザーで「Platio Studio」にログインします。 管理Studioユーザーが新規に別のStudioユーザーを追加します。
Platioアプリ (プラティオアプリ)	モバイルアプリを使う環境です。 スマートフォン・iPadでストアからインストールして利用します。 招待されたユーザーでログインして、アプリで入力・閲覧します。	ユーザー Studioユーザーがミニアプリごとに作成します。「Platioアプリ」と「データビューアー」にログインできます。
データビューアー	データの入出力・閲覧・管理する環境です。 パソコンのWebブラウザからアクセスし、ユーザーでログインします。 招待されたユーザーでログインして、データを入力・閲覧します。 また、用意したファイルのデータをインポートしたり、収集したデータをファイルにエクスポートしたりできます。	ユーザー Studioユーザーがミニアプリごとに作成します。「Platioアプリ」と「データビューアー」にログインできます。

※それぞれのStudioユーザーで権限管理ができ、ユーザーではアプリ利用の可/不可やデータの入力/編集・閲覧の可不可など設定できます。本書では、権限の説明は省略します。

Platioのしくみ

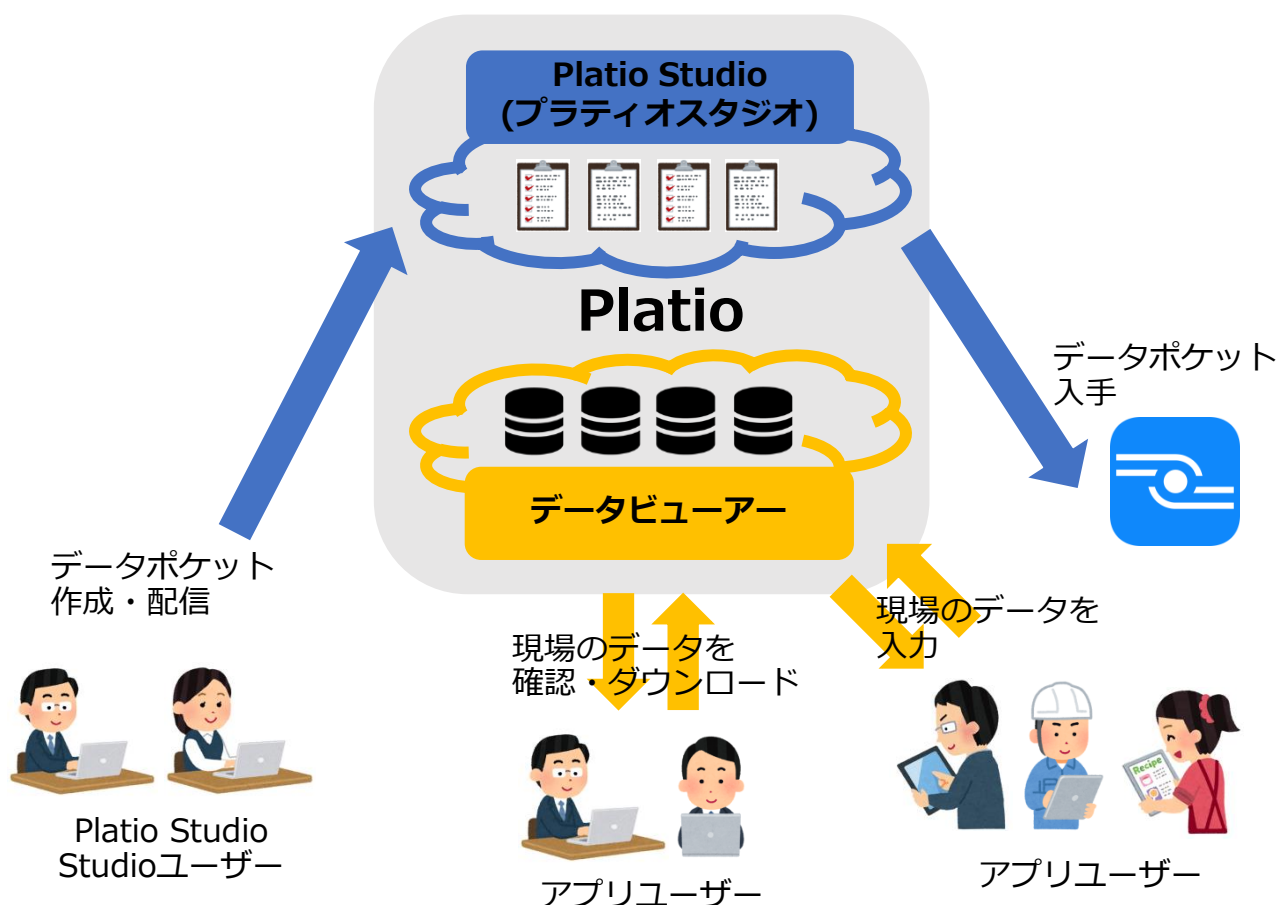
Platioのモバイルアプリとは、現場で入力したデータを入力・閲覧できる業務ツールです。「**Platio Studio**」で作ります。

データを入力・閲覧するには、モバイル端末の「**Platioアプリ**」、またパソコンのWebブラウザの「**データビューアー**」から行うことができます。

「**Platioアプリ**」は、モバイル端末ならではの機能に対応し、センサーや計測器の値をBluetooth経由で簡単に収集したり、端末の位置情報取得や撮影した写真や動画の登録を行うことができます。また、ネットワーク接続が無いオフライン環境でもデータの登録ができます。

「**データビューアー**」は、データを一覧で管理しており、CSV/Excelでのデータの入力・出力ができ、まとまったデータを外部のシステムとの連携に利用できます。また、検索による絞り込みや複数選択の操作が簡単にできます。

データビューアーへは、使い慣れたパソコンのWebブラウザからアクセスし、アプリのようにデータの入力・閲覧もできます。ただし、モバイル端末に比べて、キーボードで入力できる情報に限られます。



① 作る (モバイルアプリを作る)

本書では、Platioのテンプレートの中から、工事現場における作業状況を記録する「工事現場作業報告」テンプレートを例に、アプリを作成する手順を説明していきます。

「工事現場作業報告」テンプレート

このテンプレートのユーザーは、現場監督者を想定しています。

モバイル端末から報告データとして、現場の位置情報（緯度/経度）を地図機能で取得した情報や現地の写真などを保存できます。



このテンプレートに入ってるモバイルアプリで、以下の情報を入力します。

「工事現場作業報告」データポケット	
フィールド名	型
入力日時	日時
工事名	テキスト
工種	テキスト選択
場所	テキスト
場所（地図）	地図（位置）
設計寸法	数値
実測寸法	数値
立会者	テキスト
略図	ファイル
写真	画像（小）
写真（手書き）	手描き画像

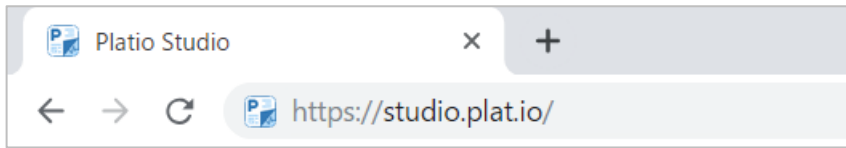
集まった記録データは、モバイル端末のアプリとPCのブラウザでデータビューアーから参照・編集できます。

データビューアーでは、データをエクスポートすることができ、月間など期限ごとの報告がスムーズにできます。また、画像をダウンロードできるので、現場写真だけを別で管理したいときに活用することができます。データビューアーについてはP24の「③見る」で説明します。

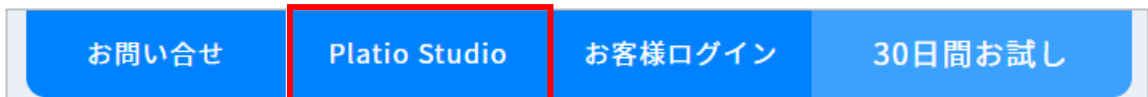
では、さっそくモバイルアプリを作成する環境にログインしてみましょう。

Platio Studioにアクセスしてログインする

パソコンのブラウザで「<https://studio.plat.io/>」にアクセスします。



または、Platioサイト「<https://plat.io/>」へアクセスして「**Platio Studio**」をクリックします。



ログイン画面に、「**今すぐ体験！**」申し込み時に登録した内容でログインします。

例)

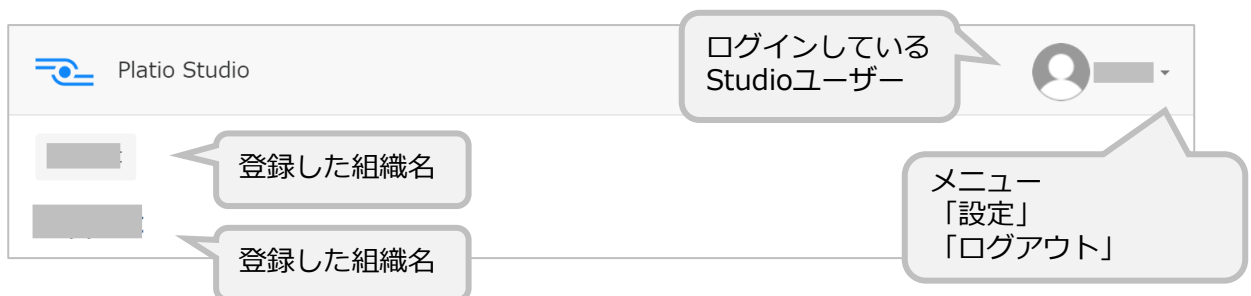
組織名 : **organization**

初期ユーザー名 : **admin**

パスワードを入力して「ログイン」をクリックしてください。

※ Studioユーザー名は「組織名/初期ユーザー名」の形式でも入力できます。上記のように登録した場合、Studioユーザー名に「**organization/admin**」と入力します。

ログインすると、以下の画面が表示されます。



【ユーザーとパスワードを忘れたら】

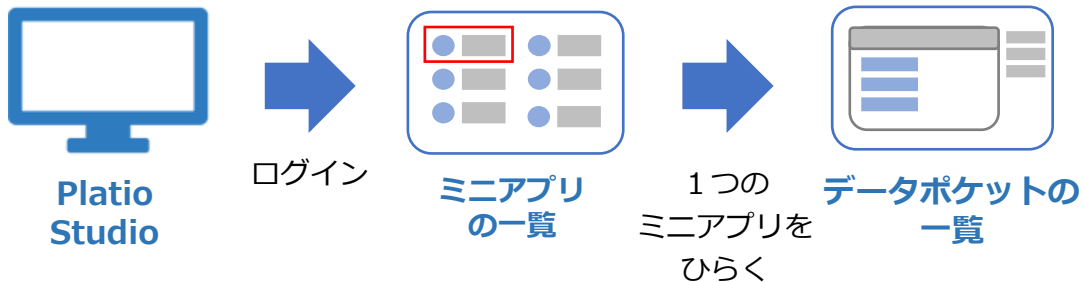
「今すぐ体験！」を申し込みされた際にStudioユーザー情報などをメールで案内しています。お使いのメールソフトで「Platio」で検索してみてください。

パスワードを忘れたときには「パスワードをお忘れですか?」をクリックすると、登録したメールアドレスにパスワードをリセットするリンクが送信されます。メールをご確認ください。

ミニアプリとデータポケット

ここまで、Platioの「モバイルアプリ」と説明してきましたが、製品の用語（呼び方）として正確には、現場業務に合わせた異なる種類のデータ（レコード）を管理する単位を「ミニアプリ」と呼びます。データを入力・表示する部分を「データポケット」と呼び、ミニアプリに複数のデータポケットを含めることができます。

ここからは、明確に「ミニアプリ」と「データポケット」と呼んでいきますので、少しずつ慣れていきましょう。



ミニアプリテンプレート

Platioには、現場に合わせた約100種のテンプレートがあらかじめ提供されています。

利用シーンに合ったテンプレートを見つけて選択するだけで、すぐにモバイルアプリとして使うことができます。

ここでは、工事現場作業報告のテンプレートを使います。

カテゴリ：建設・建築

Standardプラン

Premiumプラン

Enterpriseプラン

工事現場作業報告

工事現場における作業状況を報告・管理するためのテンプレートです。

工事現場において現場で指揮する監督者やリーダーが作業状況を写真付きで報告書を作成できます。

現場の位置情報、撮影した写真、さらに撮影した写真に直接手書きし、報告できます。

※空のミニアプリを作って最初からデータポケットを作成していくこともできますが、本書では説明を省略します。

Platio Studioにログインした最初の画面は、ミニアプリ一覧です。作成したミニアプリが表示されますが、まだ作成していないため、何も表示されていません。

ミニアプリを作成しましょう。

右上の「ミニアプリを作成」をクリックします。



これから始めるウィザードの説明が表示されます。「次へ」をクリックします。



ミニアプリテンプレート一覧が表示されます。上部カテゴリーをクリックしてリストを表示し、「建設・建築」をクリックします。



「工事現場作業報告」をクリックし、「テンプレートを選択」をクリックします。

ミニアプリの作成

テンプレートを選択

建設・建築

テンプレートを検索

工事現場作業報告

建設現場作業報告

建設現場KY活動チェック

工事安全点検

建設現場ヒヤリハット記録

工事現場ヒヤリハット記録

工事現場作業報告

工事現場における作業状況を記録するためのテンプレートです。
工事現場において現場監督者が作業状況を写真付きで作業情報を記録すること
で、作業の進捗を管理できます。

もっと詳しく

データポケット

工事現場作業報告

戻る

テンプレートを選択

ミニアプリの作成画面になります。ミニアプリの名前を入力します。すでに表示された名前を参考に、新しくミニアプリの名前を入力して「作成」をクリックします。

ミニアプリの作成

ミニアプリの作成

新しいミニアプリを作成して配布します。
ミニアプリの名前を入力してください。

名前 2020□□工事現場作業報告

戻る

作成

テンプレートとなるミニアプリの選択は完了しました。次に、最初にデータポケットを使うユーザーを追加します。

ユーザーを追加する

本書では、ここで作成するユーザーはサンプルとして動作確認に使います。モバイルアプリの動作確認の後、引き続き使うこともできますし、削除して新規にユーザーを追加することもできます。

ミニアプリの作成

サンプルのユーザーを追加

サンプルのユーザーを追加します。各サンプルユーザーには、使用できるデータポケットが設定されています。これらのユーザーを使用して、作成したミニアプリにログインできます。ユーザーの名前とパスワードをメモするか、CSVファイルとしてダウンロードしてください。

サンプルのユーザーを編集するには、各ユーザーの編集ボタンをクリックしてください。後でユーザーを編集することもできますが、名前は変更することができませんのでご注意ください。

実際にこのミニアプリをご利用になるときには、これらのサンプルユーザーの設定を元に、さらにユーザーをお作りいただけます。

名前	パスワード	メールアドレス	管理者
 staff1	4)U-2&t!	staff@example.org	

CSVでダウンロード

スキップ

サンプルユーザーを追加する

ここでは、ユーザーをそのまま使います。ユーザーの名前とパスワードをメモしてください。メールアドレスは、お使いのメールアドレスに変更してみましょう。ここでパスワードも変更することができます。

ユーザー情報を変更する

「staff1」のユーザー情報の編集アイコンをクリックします。

ミニアプリの作成

サンプルのユーザーを追加

サンプルのユーザーを追加します。各サンプルユーザーには、使用できるデータポケットが設定されています。これらのユーザーを使用して、作成したミニアプリにログインできます。ユーザーの名前とパスワードをメモするか、CSVファイルとしてダウンロードしてください。

サンプルのユーザーを編集するには、各ユーザーの編集ボタンをクリックしてください。後でユーザーを編集することもできますが、名前は変更することができませんのでご注意ください。

実際にこのミニアプリをご利用になるときには、これらのサンプルユーザーの設定を元に、さらにユーザーをお作りいただけます。

名前	パスワード	メールアドレス	管理者
 staff1	4)U-2&t!	staff@example.org	

CSVでダウンロード

スキップ

サンプルユーザーを追加する

メールアドレスと、必要に応じてパスワードを変更して「保存」をクリックします。

ユーザーの編集

名前  staff1

パスワード

メールアドレス

プロフィール デフォルト

キャンセル **保存**

※ミニアプリの中では、1つのユーザーに1つのメールアドレスを登録します。複数のユーザーに同じメールアドレスを登録できませんので注意してください。

「ユーザーを追加する」をクリックします。

※ここでユーザーを追加すると、登録したメールアドレスに招待メールが届きます。届いたメールは保存しておいてください。また、招待メールの送信を中止することはできません。

ミニアプリの作成

サンプルのユーザーを追加

サンプルのユーザーを追加します。各サンプルユーザーには、使用できるデータバケットが設定されています。これらのユーザーを使用して、作成したミニアプリにログインできます。ユーザーの名前とパスワードをメモするか、CSVファイルとしてダウンロードしてください。

サンプルのユーザーを編集するには、各ユーザーの編集ボタンをクリックしてください。後でユーザーを編集することもできますが、名前は変更することができませんのでご注意ください。

実際にこのミニアプリをご利用になるときは、これらのサンプルユーザーの設定を元に、さらにユーザーをお作りいただけます。

名前	パスワード	メールアドレス	管理者
 staff1	4)U-2&t!	staff@example.org	

CSVでダウンロード

スキップ **サンプルユーザーを追加する**

以下の画面が表示されます。

この情報は後で確認できます。「完了」をクリックします。

ミニアプリの作成

ミニアプリの使用

iOS / Androidアプリでミニアプリを使うには、アプリを起動し、以下のURLを入力するか、QRコードを読み取ってください。

ミニアプリの使い方は、工事現場作業報告テンプレートの詳細を参照してください。

このURLを、Platio iOSアプリまたはAndroidアプリに入力してください。

<https://app-dev.platioapp.com/app/platio-02/2020□□>
工事現場作業報告

このQRコードを、Platio iOSアプリまたはAndroidアプリで読み込むこともできます。



Platioアプリをまだインストールしていない場合、App StoreからiOSアプリを、または、Google PlayからAndroidアプリをインストールしてください。

 App Store からダウンロード

 Google Play で手に入れよう

Platioアプリの使用方法については、Platioアプリガイドを参照してください。

ユーザーの管理 **完了**

テンプレートから作成されたミニアプリのデータポケットの一覧が表示されます。

The screenshot shows the Platio Studio interface for a mini-app named "2020□□工事現場作業報告". The main area displays a table of data pockets:

データポケット名	種類	グラフ	最終更新日時
工事現場作業報告	主		

Annotations on the image:

- "ミニアプリ名" points to the mini-app title "2020□□工事現場作業報告".
- "データポケット名(※)" points to the data pocket name "工事現場作業報告".
- "データポケット一覧" points to the table of data pockets.

The right sidebar contains navigation options under "編集" (Edit) and "使う" (Use).

※データポケット名をクリックすると、データポケットを編集できます。詳しくは、本書の付録「Platio Studio」をご参照ください。

② 使う (モバイルアプリを使う)

ここから、モバイル端末でアプリの動作確認をしてみましょう。

Platio Studioでミニアプリ情報を表示

モバイル端末のPlatioアプリでミニアプリにアクセスします。

データポケット一覧の右にある「iOS / Androidアプリ」をクリックします。



ミニアプリにアクセスできるURLとQRコードが確認できます。

この画面を表示しておいてください。

次にモバイル端末をご準備ください。



ここから、モバイル端末でアプリの動作確認をしてみましょう。

Platioアプリのインストール

Platioアプリをストアからインストールして起動してみましょう。

アプリストアで「Platio」と検索してインストールしてください。

インストール後、タップして起動したら通知の確認が表示されますので、「許可」をタップして通知を許可してください。



アプリユーザーでミニアプリにログイン

起動した画面からミニアプリを開始します。開始するには2つの方法があります。

- (1) QRコードをスキャン
- (2) ミニアプリURLを入力して「ミニアプリを開始」をタップ



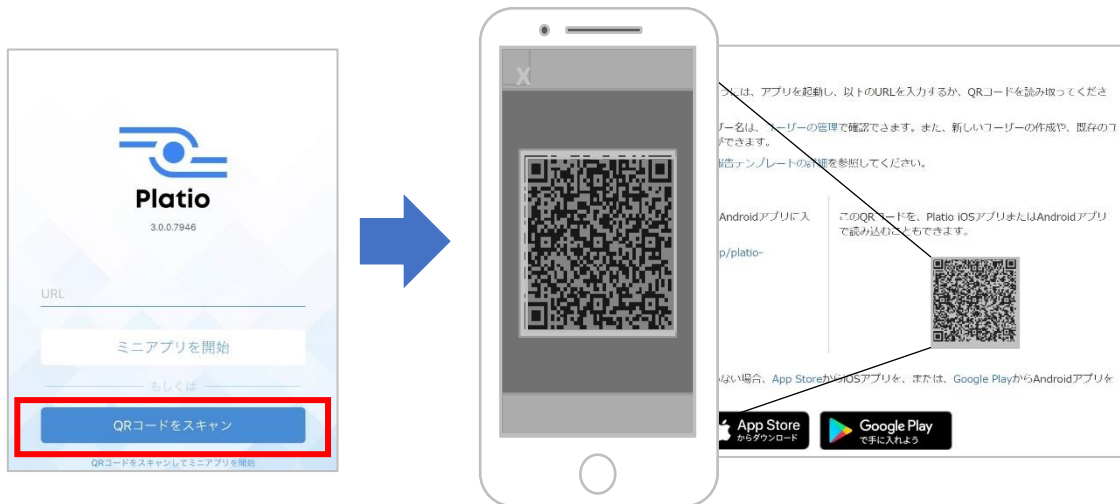
本書では(1)の手順でミニアプリを開始します。

QRコードをスキャン

Platio Studioで表示したQRコードをスキャンします。

「QRコードをスキャン」をタップすると、初回は「カメラへのアクセスを求めています」というメッセージが表示されるので「OK」をタップします。

QRコードにカメラをかざしてスキャンします。



ミニアプリにログイン

ミニアプリを開始するとアプリユーザーのログイン画面になります。

ここでP15の以下のユーザー情報を入力して「ログイン」をタップします。

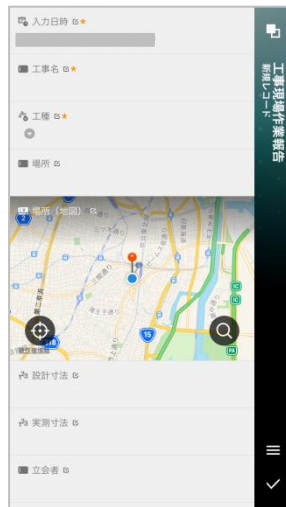
➤ ユーザー名「staff1」 または ユーザーのメールアドレス



データポケット画面

ログインすると「工事現場作業報告」データポケットの新規シーンが表示され、新しくデータを入力できる状態になっています。さっそくデータを入力してみましょう。

※「"Platio"の使用中に位置情報の利用を許可しますか？」と表示された場合は「許可」をタップしてください。



データを入力(1)

フィールド名に編集アイコンがついている項目は入力/編集ができます。

*がついている項目は必須項目です。

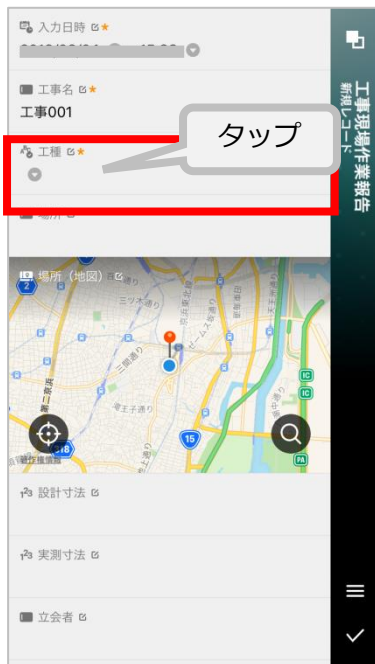
フィールド名の下をタップします。

- ・「入力日時」には初期値で現在の日付が入力されています。ここは入力不要です。
- ・「工事名」には文字列を入力します。ここでは「工事001」と入力して「次へ」をタップします。



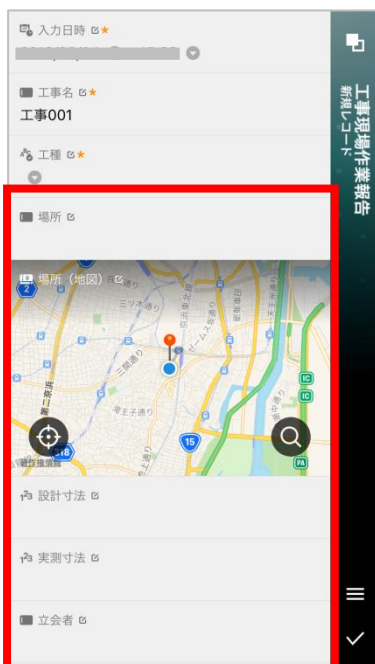
データを入力(2)

- 「工種」は選択です。フィールド名の下をタップすると選択肢の画面になります。
1つタップして選択し、「閉じる」をタップします。



(以降の入力は任意です。)

- 「場所」は文字列入力です。タップして入力します。
- 「場所（地図）」は自動で現在地が示されてします。このままにします。
- 「設計寸法」「実測寸法」は数値入力です。タップして入力します。
- 「立会者」は文字列入力です。タップして入力します。



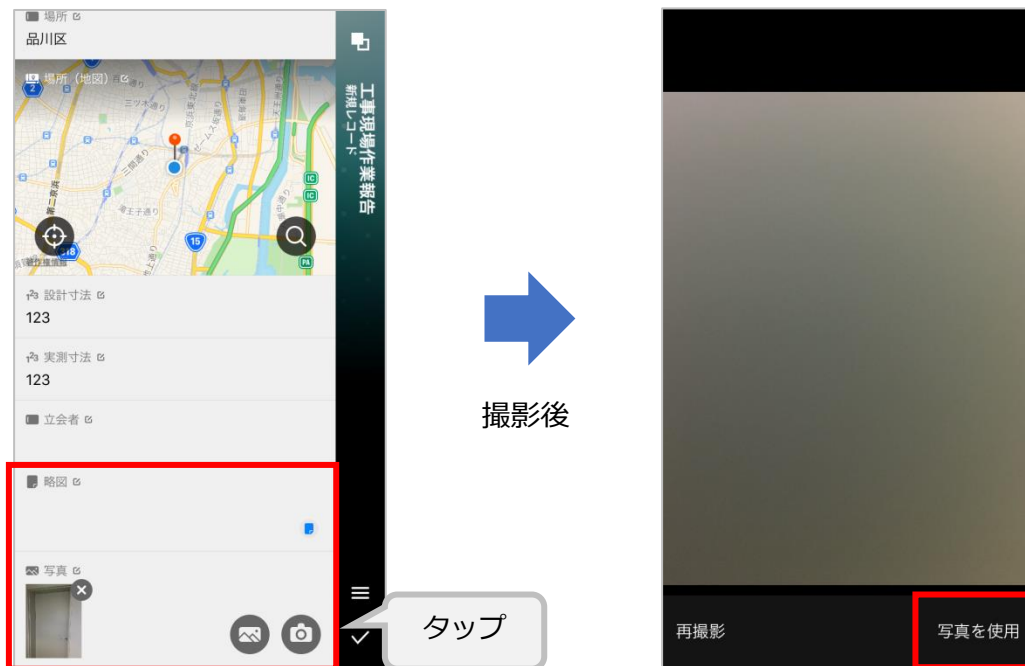
データを入力(3)

下から上にスライドして下部のフィールドを表示して、入力します。

- ・「略図」はファイルを添付します。右のアイコンをタップするとiCloud Driveなどからファイルを選択できます。
- ・「写真」はカメラロールまたは撮影して写真を添付できます。

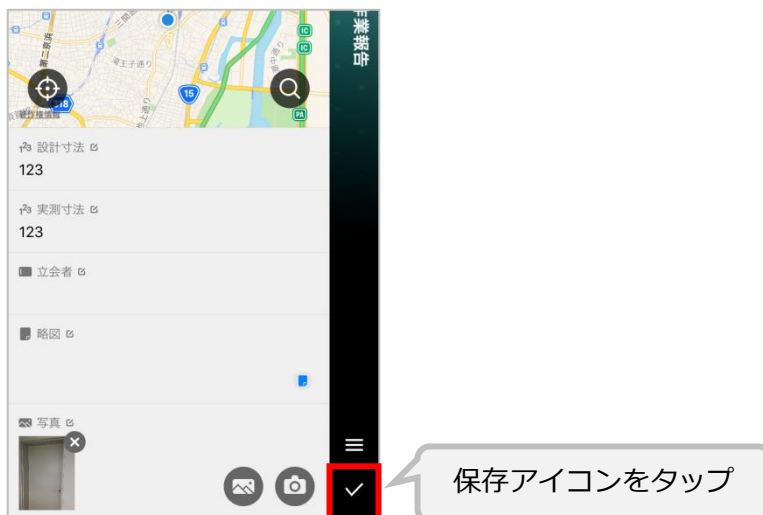
ここで、サンプルの写真を撮影してみましょう。

カメラアイコンをタップしてカメラで撮影し、「写真を使用」をタップします。



データの入力を完了する

保存すると、新しい入力画面になります。これで入力は完了です。



③ 見る (収集したデータを見る)

②の手順で入力したデータは、パソコンのブラウザからPlatioの「データビューアー」にアクセスして確認したりまとめて出力することができます。

ここでは、データビューアーを使ってデータを表示してみましょう。

データビューアーにアクセス

Platio Studioで表示していた「iOS / Androidアプリ」の画面から、ミニアプリ名をクリックしてデータポケット一覧に戻ります。



「データビューアー」をクリックします。



別のウィンドウが表示され、データビューアーのミニアプリへのログイン画面が表示されます。

ミニアプリにログイン

データビューアーのログイン画面で、P15のユーザー情報を入力して「ログイン」をタップします。

➤ ユーザー名「staff1」 または ユーザーのメールアドレス



Platio データビューアー

2020□□工事現場作業報告

ユーザー名またはメールアドレス

Hanako

パスワード

☐ ログイン状態を保持する

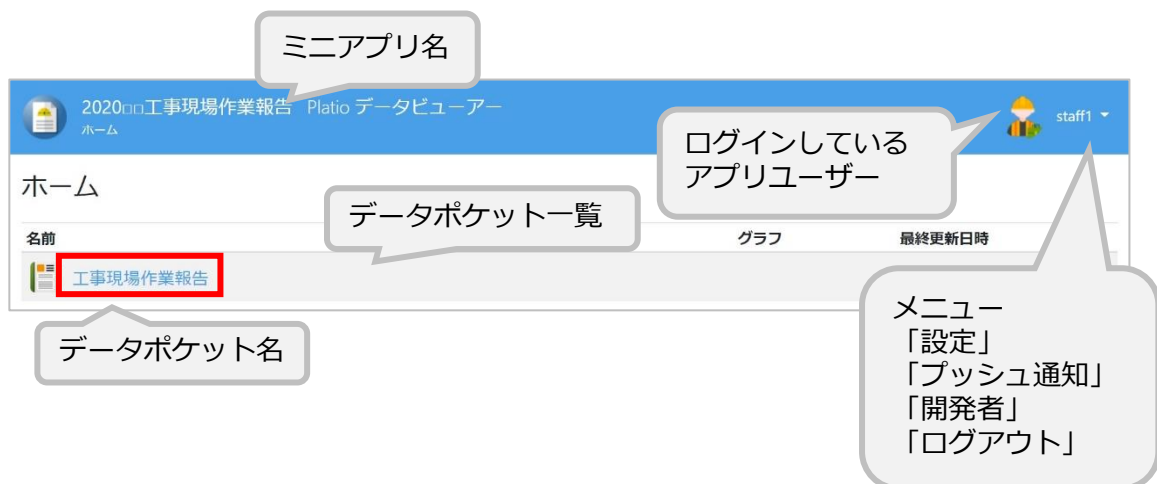
ログイン

パスワードをお忘れですか?

データポケット一覧が表示されます。

データポケット一覧からレコードを確認

「工事現場作業報告」データポケットをクリックします。



データポケットで登録されたレコード一覧が表示されます。

データポケットからフィールドに入力したデータのまとまりを**レコード**といいます。



レコード詳細を表示

レコード左の「表示」「編集」でレコードの詳細を確認できます。

表示のみしたいときは表示アイコン、編集したいときは編集アイコンをクリックします。

ここでは表示アイコンをクリックしてみましょう。

※アイコンにカーソルを当てるとヘルプが表示されます。



レコードが表示されます。

2020〇〇工事現場作業報告 Platino

ホーム > 工事現場作業

staff1

2021/06/14 11:20

画面を閉じるときは
データポケット名を
クリックします。

編集 削除

入力日時 2021/06/14 11:20

工事名 工事001

工種 舗装

場所 品川区

場所 (地図)



緯度

経度

設計寸法 123

実測寸法 123

立会者 鈴木

写真



写真 / 工事名

レコードの編集

モバイル端末のデータポケットは、レコードを表示するアプリのため閲覧専用でしたが、**データビューアー**ではモバイル端末と同じようにデータを入力・編集することもできます。

データ入力・編集では文字列や数値のみで、以下の制限がありますので注意してください。

- ・ 集計フィールドは使えません。
- ・ レコード参照など別のデータポケットからのデータ利用は自動的に設定できません。
- ・ モバイル端末でのみ可能なデータの収集、例えば位置情報の緯度経度の自動的な取得やIoTセンサーからのデータ収集などは、パソコンのブラウザからでは取得できません。データポケットによっては入力無しになります。

編集は、レコード一覧で編集アイコンをクリックするか、またはレコードを表示した画面で「編集」をクリックします。編集画面では、各フィールドが編集可能です。

The screenshot shows the 'Platio データビューアー' (Platio Data Viewer) interface. At the top, there's a header with the title '2020年度工事現場作業報告 Platio データビューアー' and a user profile 'staff1'. Below the header, the date '2021/06/14 11:20' is displayed. The main form contains several fields: '入力日時' (Input Date/Time) with a value of '2021/06/14 11:20' and a '編集可能' (Editable) label; '工事名' (Project Name) with the value '工事001'; '工種' (Work Type) with a dropdown menu showing '舗装'; '場所' (Location) with the value '品川区'; '場所 (地図)' (Location (Map)) with a Google Map showing the location in Shinagawa-ku; '緯度' (Latitude), '経度' (Longitude), and '高度' (Elevation) fields, all currently empty; '設計寸法' (Design Dimension) with the value '123'; '実測寸法' (Actual Measurement) with the value '123'; '立会費' (Attendance Fee) with the value '鈴木'; '写真' (Photo) with a thumbnail image and a caption 'image-20210614-123431.jpeg'; and '写真 (手書き)' (Photo (Handwritten)) with a '撮影' (Take Photo) button. The bottom of the form has a note: 'イメージファイル (.jpeg, .jpg, .png) が選択できます。' (Image files (.jpeg, .jpg, .png) can be selected.).

以上で、Platio製品の基本的な操作説明は終わりです。

Platioセミナーのご案内

もう少し基本操作を確認したいときは、無料体験セミナーにご参加ください。

操作の不明点や疑問点などその場でお気軽にご質問いただけます。

ご参加お待ちしております！



ノンプログラミングなモバイルアプリ作成を体験！

Platio無料体験セミナー

開催場所 | アステリア株式会社 東京本社

参加
無料

事前
登録制



【セミナーのご案内】

https://event.asteria.com/jp/event/etaiken_platio_web/

付録

Platio Studio	30
データポケットでフィールドを確認する	30
データポケットの設定情報と削除	32
データポケット画面：フィールドについて	33
データポケット画面：フィールドの追加	33
データポケット画面：フィールド並び替えて	34
データポケット画面：フィールド挿入/複製/削除	34
データポケット画面：保存	35
ミニアプリの配布	35
ユーザー	37
プロフィール	38
Platioアプリ	39
招待メールから直接、ミニアプリを開始	39
ミニアプリURLでミニアプリを開始	40
データポケット画面から別のデータポケットへ切り替え	41
ミニアプリを配布後、ミニアプリを更新	42
別のミニアプリを追加	43
データビューアー	44
招待メールから直接、ミニアプリのデータビューアーへアクセス..	44

Platio Studio

Platio Studioで、テンプレートを選択して作ったデータポケットはカスタマイズすることができ、編集画面で設定情報を変更したりフィールドを追加・編集・削除したりすることができます。この付録では、データポケットの編集とミニアプリの配布について説明します。

データポケットでフィールドを確認する

工事現場作業報告テンプレートから作成したミニアプリには、現場監督者が使う「工事現場作業報告」のデータポケットがあり、必要な入力項目がすでに定義されています。

データポケットを表示して、データの入力項目を確認してみましょう。

「工事現場作業報告」データポケットをクリックします。



データポケットを編集する画面が表示されます。

データポケット名

テンプレート
で設定された
フィールド

フィールド値
のサンプル

The screenshot shows the '工事現場作業報告' data pocket edit screen. It features a table with columns for '入力日時' (Input Date/Time), '工事名' (Project Name), '工種' (Work Type), '場所' (Location), '場所 (地図)' (Location (Map)), '設計寸法' (Design Dimensions), '実測寸法' (Actual Dimensions), and '立役' (Role). The table contains three rows of sample data. The first row is for '工事名 (1)' (Project Name (1)) with '土木' (Civil Engineering) as the work type, '場所 (1)' (Location (1)), coordinates '35.680000, 139.69...', dimensions '149' and '156', and role '立役' (Role). The second row is for '工事名 (2)' (Project Name (2)) with '舗装' (Paving) as the work type, '場所 (2)' (Location (2)), coordinates '36.680000, 140.69...', dimensions '137' and '101', and role '立役' (Role). The third row is for '工事名 (3)' (Project Name (3)) with 'とび・土工' (Excavation/Earthwork) as the work type, '場所 (3)' (Location (3)), coordinates '37.680000, 141.69...', dimensions '189' and '137', and role '立役' (Role). The table is outlined with a red border.

入力日時	工事名	工種	場所	場所 (地図)	設計寸法	実測寸法	立役
...	工事名 (1)	土木	場所 (1)	35.680000, 139.69...	149	156	立役
...	工事名 (2)	舗装	場所 (2)	36.680000, 140.69...	137	101	立役
...	工事名 (3)	とび・土工	場所 (3)	37.680000, 141.69...	189	137	立役

モバイルアプリで管理するデータの入力項目のことを「フィールド」といいます。

テンプレートであらかじめ設定されたフィールドが表示されています。

この画面では、モバイル端末での画面表示サンプルを確認することもできます。

モバイル端末でデータポケットの操作によって切り替わる各画面を「シーン」といいます。



モバイル端末でどのようにフィールドが表示されるか確認できます。

「一覧」シーンにカーソルをあてると、モバイル端末での画面表示サンプルが表示されます。

アプリで画面メニューをタップするとどの画面に移動して表示されるかがシミュレーションされています。ここで、アプリでの操作をあらかじめ確認できます。



次に、モバイル端末で、これらのフィールドがどのように見えるかを確認していきましょう。

データポケットの設定情報と削除

データポケットの設定情報を確認できます。「設定」をクリックします。

入力日時	工事名	工種	場所	場所 (地図)	設計寸法	実測寸法	立会者
	工事名 (1)	土木	場所 (1)	35.680000, 139.69...	149	156	立会
	工事名 (2)	舗装	場所 (2)	36.680000, 140.69...	137	101	立会
	工事名 (3)	とび・土工	場所 (3)	37.680000, 141.69...	189	137	立会

「データポケットの設定」画面が表示されます。

設定情報を変更したり、データポケット自体を削除することができます。

データポケットの設定

名前: 工事現場作業報告

タイトル: データポケット

権限: 誰でも読み込み可・作成者のみ書き込み可

アイコン: アイコンを変更

壁紙: 壁紙を変更

タイプ: レコード作成

このデータポケットを削除 キャンセル 保存

データポケット名の変更は、編集画面でも操作できます。

2020□□工事現場作業報告 ▶ 工事現場作業報告

工事現場作業報告

ここをクリックしてデータポケット名を変更できます。変更後Enterキーで確定します。

画面を閉じるときはミニアプリ名をクリックします。

設定 関連データポケット 保存

データポケット画面：フィールドについて

テンプレートで、入力形式に対応したフィールドがデータポケットに設定されています。

フィールドは、文字列、数値、日時、画像や動画などのファイル、QRコードや各種センサーからのデータなど様々な型の値を入力することができます。



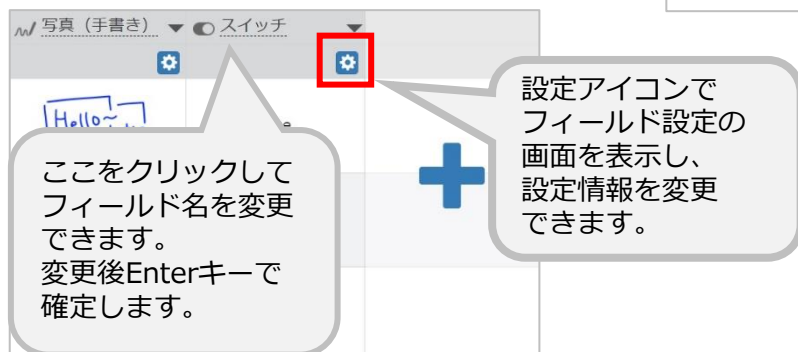
データポケット画面：フィールドの追加

テンプレートで設定されているフィールドに、新しくフィールドを追加できます。

- ① 一番右にある「+」アイコンをクリックします。
- ② 「フィールドの追加」画面が表示されます。追加したいフィールドを選択して「追加」をクリックします。



- ③ フィールドが追加されました。設定アイコンをクリックして設定情報を編集したりフィールドの名前を変更したりできます。



データポケット画面：フィールドの並び替え

フィールド一覧では、フィールドをドラッグ&ドロップして並び替えをすることができます。

- ① フィールドアイコンをクリックして長押しします。



入力日時	工事名	工種	場所	場所(地図)	設計寸法
...	工事名 (1)	土木	場所 (1)	35.680000, 139.69...	154
...	工事名 (2)	舗装	場所 (2)	36.680000, 140.69...	114
...	工事名 (3)	とび・土工	場所 (3)	37.680000, 141.69...	184

- ② 配置したい位置へドラッグ&ドロップします。



入力日時	工事名	工種	場所	場所(地図)	設計寸法
...	工事名 (1)	土木	場所 (1)	35.680000, 139.69...	173
...	工事名 (2)	舗装	場所 (2)	36.680000, 140.69...	138
...	工事名 (3)	とび・土工	場所 (3)	37.680000, 141.69...	106

データポケット画面：フィールドの挿入/複製/削除

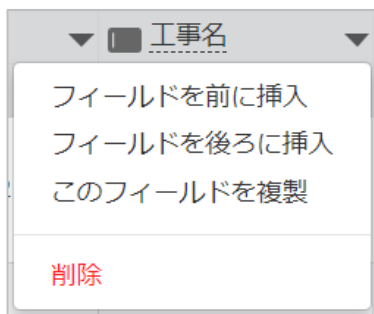
フィールドメニューでは、フィールドの挿入/複製/削除ができます。

- ① フィールドメニューをクリックします。



入力日時	工事名	工種	設計寸法
...

- ② メニューをクリックして挿入/複製/削除を行います。



▼ 工事名 ▼

フィールドを前に挿入

フィールドを後ろに挿入

このフィールドを複製

削除

データポケット画面：保存

データポケットを編集したら「保存」をクリックします。

現場作業報告

設定 関連データポケット 保存

入力日時 場所 (地図) 工事名 工事種 場所 設計寸法 実測寸法

35.680000, 139.69...	工事名 (1)	土木	場所 (1)	142	125
----------------------	---------	----	--------	-----	-----

画面右上に保存完了のメッセージが表示されます。

✓ データポケットを保存しました。

ミニアプリの配布

更新したミニアプリをモバイル端末で使える状態にすることを配布といいます。

データポケットを更新した後に配布していない場合、配布ボタンが赤く表示されます。

データポケット編集画面で「配布」をクリックします。

2020□□工事現場作業報告 ▶ 工事現場作業報告

工事現場作業報告

主

設定 関連データポケット 保存

入力日時 場所 (地図) 工事名 工事種 場所 設計寸法 実測寸法 立会

データポケット一覧の場合、ミニアプリとデータポケットに赤いアイコンが表示されます。

2020□□工事現場作業報告 ▶ 2020□□工事現場作業報告

配布

データポケットを追加 設定

工事現場作業報告テンプレートの詳細を見る

データポケット名	種類	グラフ	最終更新日時
工事現場作業報告	主		

編集

- データポケット
- 検知
- 位置情報サービス
- 式サンドボックス

管理

- ユーザー
- プロフィール
- チーム

配布していないデータポケット

配布ボタンをクリックすると配布の確認画面が表示されます。「配布」をクリックします。

ミニアプリの配布

はじめに

このウィザードは、ミニアプリの新しいバージョンを配布する各手順をご案内します。

- ミニアプリを配布する
- ミニアプリを使う

キャンセル 配布

ユーザー

アプリを使うユーザーは、ユーザー画面で管理します。

データポケット一覧画面で「ユーザー」をクリックします。



ユーザー画面が表示され、ユーザーが一覧で確認できます。



ユーザーを追加する場合は、「ユーザーを追加」をクリックしてユーザーの追加画面でユーザー情報を入力して追加します。

※ メニューからは、CSV形式のユーザー情報ファイルでインポート・エクスポートができます。

ユーザーの追加

名前

ユーザー名には、「_」から始まらない、64文字以下の文字列が使用できます。

パスワード

メールアドレス

メールアドレスは、ミニアプリへのログイン、招待メールや通知メールなどの送信のために使用されますので、正確に指定してください。

プロフィール

☐ 管理者

☐ レコードや添付ファイルへのAPIでのアクセスを許可 Pro Plan

ユーザー一覧で「このユーザーに似たユーザーを追加」をクリックすると、「プロフィール」「管理者」「レコードや添付ファイルへのAPIでのアクセスを許可」の設定が同じユーザーを簡単に追加できます。



プロフィール

プロフィールでは、ユーザーが役割を持つ場合に、複数のデータポケットとデータビューアーの使用を管理できます。

以下のミニアプリ例では、5個のデータポケットがあります。「ユーザー」をクリックします。

このミニアプリでは、ユーザーがデフォルト（管理者）・受付・営業の役割を持ちます。

右メニューで「プロフィール」をクリックします。

プロフィール画面が表示され、プロフィールが一覧で確認できます。

「デフォルト」のプロフィールはすべてのデータポケットを利用できます。

営業のプロフィールでは、2個のデータポケットが使用できるように設定されています。

プロフィールの編集

名前

プロフィール名には、64文字以下の文字列が使用できます。

データポケット

- ☐ QRコード受付
- ☒ セミナー参加者確認
- ☒ 出欠合計
- ☐ セミナー参加者登録 (メール送信用)
- ☐ 担当営業リスト

☒ データビューアーの使用を許可

Platioアプリ

Platioアプリで、テンプレートを開始するとき、本書の手順ではPlatio StudioのQRコードをスキャンしましたが、P15の手順でユーザーを追加したときに送信された招待メールの本文からもミニアプリを開始できます。この付録では、招待メールからのログインと、別のデータポケットへの切り替え、ミニアプリの更新について説明します。

招待メールから直接、ミニアプリを開始

ユーザーが、Platioアプリを利用するモバイル端末でメールを受信したときは、一番簡単にミニアプリを開始することができます。Platioアプリをインストール後、メールアプリで招待メールを開きます。本文にあるミニアプリ名をタップすると、Platioアプリが起動してミニアプリを開始します。

ユーザーが、パソコン等の別の環境でメールを受信したときは、P22の手順と同様、モバイル端末でPlatioアプリを起動して「QRコードをスキャン」をタップして、カメラで招待メール本文のQRコードをスキャンし、ミニアプリを開始できます。

以下は、招待メールの本文です。

Platioのミニアプリ「2020□□工事現場作業報告」に招待されました。

以下のユーザー名またはメールアドレスと、パスワードを使用してログインしてください。

ユーザー名: **staff1**

メールアドレス: [REDACTED]

パスワード: [REDACTED]

このミニアプリを、今お使いのiPhone/iPadやAndroidスマートフォンで使用するには、以下のQRコードをスキャンしてください。

Platio iOSアプリやAndroidアプリで、このQRコードをスキャンすることもできます。

モバイル端末のメールアプリの場合、ここをタップするとPlatioアプリが起動

パソコンのメールソフトの場合、モバイル端末のPlatioアプリを起動してカメラでここをスキャン

ミニアプリURLでミニアプリを開始

Platioアプリでミニアプリを開始するとき、QRコードをスキャンする方法と、もう1つミニアプリURLを入力して開始する方法があります。

Platio Studioでミニアプリのデータポケット一覧で、「iOS / Androidアプリ」メニューからミニアプリのアクセス情報を表示すると、ミニアプリURLを確認できます。



データポケット画面から別のデータポケットへ切り替え

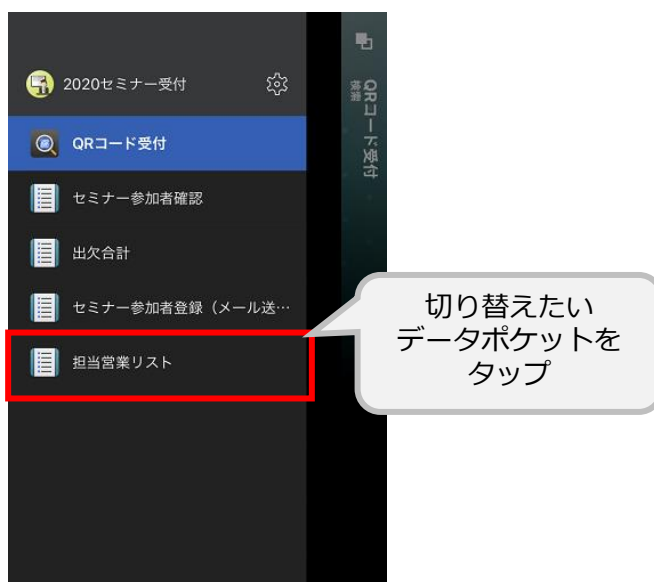
本書では、Platioアプリでデータポケットが1つのミニアプリテンプレートを使用しましたが、複数のデータポケットを使うミニアプリテンプレートもあります。Platioアプリでミニアプリにログインすると最初のミニアプリ画面が表示されます。ここから別のデータポケットへ切り替えるには、画面右上にある切替アイコンをタップしてデータポケット一覧を表示します。

下図の例は、データポケットがミニアプリに1個の場合です。



下図はミニアプリに複数個のデータポケットがある場合です。

表示されたデータポケット一覧で切り替えたいデータポケット名をタップして切り替えます。



ミニアプリを配布後、ミニアプリを更新

Platio Studioでデータポケットを更新してミニアプリを配布した後、モバイル端末側でミニアプリを更新します。（ログアウト中に更新があったときは次回ログインで自動更新されます。）

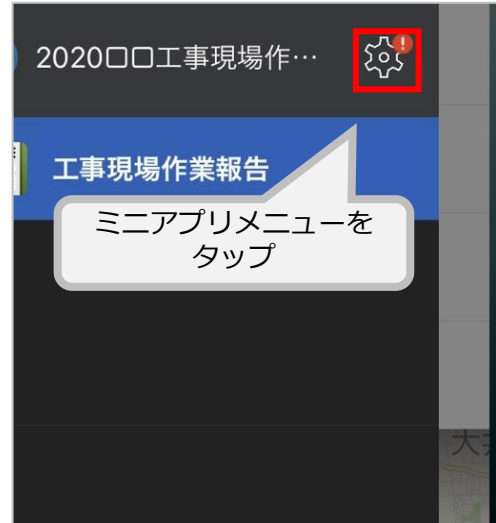
ログイン中にミニアプリの更新があるときデータポケット画面で更新マークが表示されます。

以下の手順でミニアプリを更新します。

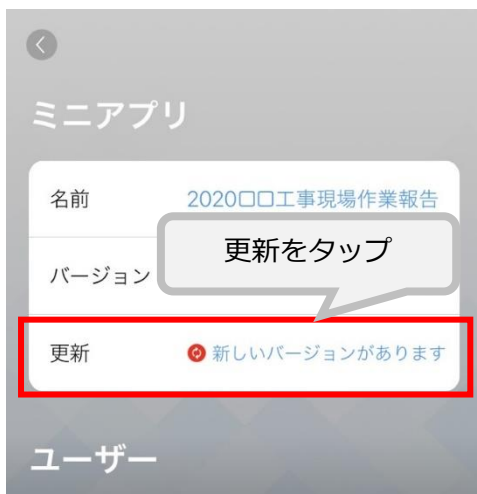
- ① データポケット画面で切替アイコンをタップします。



- ② データポケット一覧でミニアプリメニューをタップします。



- ③ 更新をタップします。



- ④ 表示された確認メッセージで「更新」をタップします。



別のミニアプリを追加する

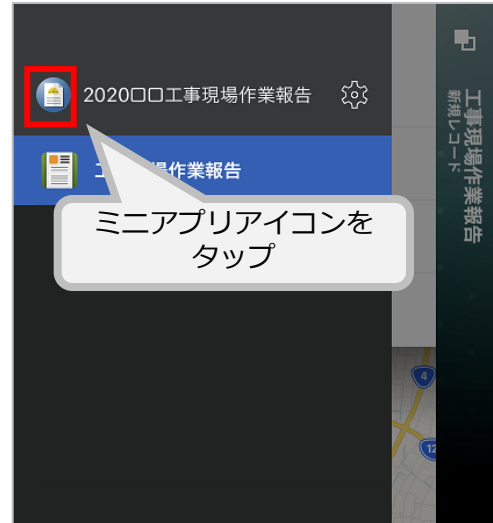
業務によって複数のミニアプリを利用するときは別のミニアプリを追加します。

以下の手順でミニアプリを追加します。

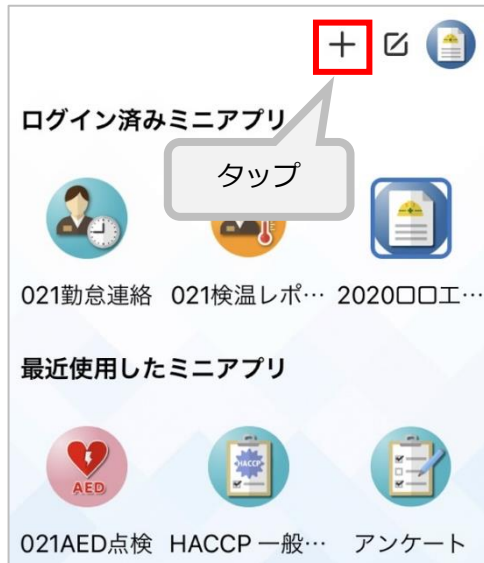
- ① データポケット画面で切替アイコンをタップします。



- ② データポケット一覧でミニアプリメアイコンをタップします。



- ③ 使用したミニアプリ一覧が表示されます。新しく別のミニアプリを追加には「+」をタップします。



- ④ 初期画面になります。QRコードをスキャンするか、ミニアプリURLを入力してミニアプリを開始します。



ログイン済みまたは最近使用したミニアプリに切り替える場合は、③の画面で別のミニアプリアイコンをタップします。

データビューアー

データビューアーはミニアプリごとにログインする必要があります。URLにミニアプリの名前が含まれていて、それぞれアクセスするミニアプリを分けています。

本書の手順ではPlatio Studioからミニアプリのデータポケット一覧のメニューでデータビューアーへアクセスしましたが、P15の手順でユーザーを追加したときに送信された招待メールの本文からもミニアプリのデータビューアーへアクセスできます。この付録で、手順を説明します。

招待メールから直接、ミニアプリのデータビューアーへアクセス

ユーザーが、パソコン等の別の環境でメールを受信したときは、以下の招待メールの本文のミニアプリ名をクリックすると、データビューアーへアクセスできます。

